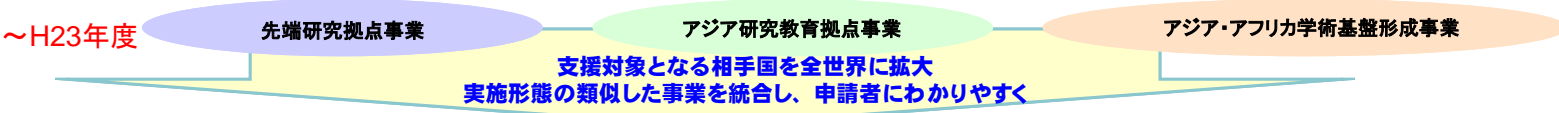


**【目的】** 我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする。

**【必要性】**  
「第4期科学技術基本計画」(平成23年8月19日閣議決定)  
 ・ 国は、世界的に高い科学技術水準を持つ諸国との間で、幅広い分野での国際研究ネットワークの充実を図り、海外の優れた研究資源を活用しつつ、先端科学技術に関する国際協力を推進する。  
 ・ 我が国は、アジア、アフリカ、中南米等の開発途上国との国際協力を積極的に推進し、これらの国々における科学技術の発展、人材養成等に貢献していくことを強く期待されており、これは国際社会における我が国の責務でもある。このような観点から、開発途上国との間で、科学技術について多面的な国際協調及び協力を推進する。  
**経済財政運営と改革の基本方針(平成25年6月14日閣議決定)**  
 ・ 意欲と能力に富む若者の留学環境の整備や大学の国際化によるグローバル化等に対応する人材力の強化や・・・など、未来への飛躍を実現する人材の養成を行う。



## 研究拠点形成事業 (H24年度～)

### A. 先端拠点形成型

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題  
 対象国: 我が国と国交のある2か国以上  
 経費・期間: 2000万円/年 × 5年間 (※)  
 採択予定数: 10件程度  
 (※)5年間の継続支援により、拠点形成及び若手研究者の育成を行う。ただし、3年目に中間評価を行い、継続の可否等を判断。



### B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

アジア・アフリカ地域に特有、又は同地域で特に重要と認められる研究課題であり、かつ、我が国が重点的に研究することが有意義と認められるもの  
 対象国: 我が国と国交のあるアジア・アフリカ諸国  
 経費・期間: 800万円/年 × 3年間  
 採択予定数: 15件程度



- ・我が国がハブとなり、先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、世界規模のネットワークを構築
- ・我が国が主導で、アジア・アフリカ諸国の研究水準向上を推進(新興国の成長力の取り込み/ODAから対等な共同研究への橋渡し)
- ・欧米・アジア諸国等との先端研究ネットワークの強化・発展
- ・対象国の拡大・採択年数の延長による申請機会の拡大

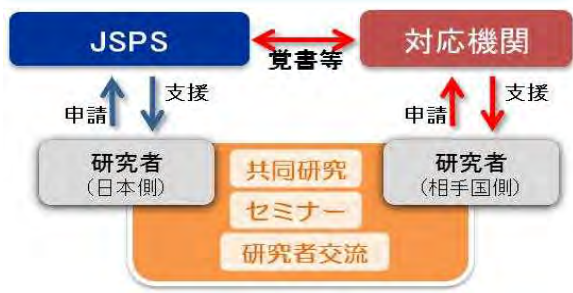
## 二国間交流事業

平成26年度予算額 : 1,080百万円  
(平成25年度予算額 : 1,021百万円)  
※運営費交付金中の推計額

### 【事業概要】

- ・学術研究活動の多様性、研究ニーズ及び諸外国の研究水準に配慮しつつ、学術振興機関との覚書等に基づいた共同研究、セミナー等を実施。
- ・国際的な学術研究活動の多様なニーズに応え、かつ学術振興機関等との連携の可能性を検討する観点から、国交のある全世界を対象としたオープンパートナーシップ共同研究・セミナーを平成25年度より設置。

### 【A. 覚書等に基づく共同研究・セミナー等】 マッチングファンドによる確実な支援



- 【共同研究】**  
 ・1~3年間  
 ・1課題100~500万円/年度
- 【セミナー】**  
 ・1週間以内  
 ・1セミナー120~250万円
- 【研究者交流】**  
 ・14日~2年間  
 ・往復渡航費、滞在費等負担

### 【B. オープンパートナーシップ】 マッチングを目指して国交のある全世界をカバー



A 覚書等に基づく共同研究・セミナー・研究者交流	
アフリカ	エジプト(MOSRT)、ケニア(NCST)、南アフリカ共和国(NRF)、チュニジア(MHESR)
アジア	バングラデシュ(UGC)、中国(CAS, CASS, MOE, NSFC)、インド(DST, INSA)、インドネシア(DGHE, LIPI)、韓国(NRF)、フィリピン(DOST)、シンガポール(NUS)、タイ(NRCT)、ベトナム(MOST, VAST)
北米・中南米	カナダ(NSERC)、ブラジル(CAPES)、アルゼンチン(CONICET)、メキシコ(CONACYT)
オセアニア	ニュージーランド(MBIE, RSNZ)、オーストラリア(AAS)
ヨーロッパ	オーストリア(FWF, BMWF, OeAD-GmbH)、ベルギー(F.R.S.-FNRS, FWO)、チェコ(ASCR)、フィンランド(AF)、フランス(CNRS, Inria, MAE, Inserm, IHÉS)、ドイツ(DAAD, DFG)、ハンガリー(HAS)、イタリア(CNR)、オランダ(NWO)、ポーランド(PAN)、ロシア(RFBR)、スロベニア(MIZS)、スウェーデン(STINT, RSAS)、ブルガリア(MES)、デンマーク(DU)、ノルウェー(RCN)、ルーマニア(MEN)、スロバキア(SAS)、スペイン(CSIS)

**B オープンパートナーシップ共同研究・セミナー**  
 対象国・地域: 我が国と国交のあるすべての国(台湾及びバレスチナについては、これに準じて取り扱う)

### 【事業効果発現の例】

- 大学間協定の締結
- 事業終了後の継続的な若手研究者の派遣・受入
- より発展的な共同研究事業への展開
- 共著論文の著名誌への掲載
- 国際的に著名な賞の受賞、特許取得など

## 事業目的

科学技術分野でのアジアとの青少年交流プログラムを実施することで、日本の最先端科学技術への関心を高め、もって日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の獲得に貢献する。

## 事業概要

### 事業のポイント

- ✓ 科学技術振興機構(JST)にて、特に優秀な人材を招へいし、事業を実施。
- ✓ 提供する科学技術交流コンテンツをメニュー化し、プラットフォームを構築。
- ✓ 留学生交流等のプログラムとも有機的に連携し、施策の相乗効果を図る(合計して、約5,000人/年規模の交流事業を実施)。

### (1)特に優秀な人材の招へい

科学技術に関し、特に優秀な人材については、JSTのネットワークを駆使して、日本に招へいし、サイエンス交流事業を実施。企業や大学、研究機関のハイレベルの科学技術人材獲得に寄与するよう、連携して実施。

#### 招へいの概要

- 人数：約2,000人/年規模
- 対象国：東アジア・ASEAN15か国・地域等
- 対象：高校生、大学生、大学院生、ポスドク
- 期間：約1～4週間

### (2)科学技術交流コンテンツのプラットフォーム構築

JSTの最先端研究、科学技術コミュニケーション、次世代人材育成等の実績・ネットワークを最大限に活用して、科学技術交流コンテンツをメニュー化し、招へい者に提供。他の国際交流プログラムにも提供し、有機的に連携(約3,000人/年規模)。

## 日本・アジア青少年サイエンス交流事業

